

P・F・ドラッカー著 「プロフェッショナルの条件 いかにも成果をあげ、成長するか」

ダイヤモンド社 2000年6月29日刊を読む

「明治維新」と「第2次世界大戦後の日本の復興」の意味とは

1. 私の心の中で、日本は70年近くにわたって重要な位置を占めてきた。1934年にロンドンの小さな銀行で働いていた私は、偶然、日本画展に足を踏み入れた。当時ヨーロッパでは、日本はほとんど知られていなかった。日本画にいたっては、何も知られていなかった。私自身、聞いたこともなかった。だが私の人生において、1934年6月の薄暗いロンドンの美術館で受けた衝撃は、その後経験することのないものとなった。私は日本画の虜になった。今もそれは変わらない。
2. 私はさっそく、それらの素晴らしい絵画を生んだ国について調べた。日本の文化、社会、歴史を学んだ。そこで、もう一つ驚くべきものを見つけた。それは当時、ヨーロッパでは同じように知られていなかった明治維新だった。
3. 1930年代半ばといえば、ヒトラーがドイツを手中にした後、全ヨーロッパの征服に乗りだし、世界を支配すべく準備を進めていた時期だった。私は、昼は銀行で働きながら、夜はこのヨーロッパの社会と文明の崩壊をいかに捉えるかについて考えた。その成果が、処女作『経済人の終わり』（1939年）だった。
4. 私は同時に、社会と文明の再興をいかに果たすかについても考えた。当時すでに私は、ヒトラーが最後には破滅するであろうことを確信していた。そのようなときに知ったのが、ヨーロッパを麻痺させ、ヒトラーの台頭を許した失政と分裂と動乱に匹敵する状況から社会を蘇生させ、固有の文化を守り抜き、政治と経済の機能を取り戻すことに成功した明治維新という70年前の偉業だった。
5. 私は明治維新からヨーロッパが学ぶべきものを考えた。人類の歴史上、明治維新には似たものがなかった。この明治維新への探究心が、やがて私のライフワークとなったもの、すなわち社会の核、絆としての組織体への関心へとつながっていった。

6 . その 15 年後、20 年後、私は日本の第二の奇跡を目にした。それは、混乱と廃墟からの復興だった。今日の日本、世界第二位の経済大国しか知らない人たちにとっては信じられないだろうが、1940 年代末の日本を見てその復興を可能とした者は、世界にひとりもいなかった。ところが実際には、戦後 10 年、そこには新生日本があった。驚くべきことに、あくまでも日本としての日本が生まれていた。ここでも、人類の歴史上、戦後日本には似たものがあった。

7 . とはいえ、戦後日本の奇跡については説明がつく。それは主としてマネジメント、特に企業マネジメントの成果だった。

8 . 今日日本は、140 年前と 50 年前の二つの転換期に匹敵する大転換期にある。

9 . そこで求められる姿勢、変化と継続双方への関わり方、一人ひとりの人間のとるべき行動、リーダーシップは同じである。

[コメント]

世界的大不況の下で日本は、また、世界は何をどうしたらよいのだろうか。「明治維新」と「第 2 次世界大戦後の日本の復興」に続く「奇跡」を、日本人が自らの手で起こす以外にない。そう考えさせるのが、ドラッカー先生の本著作だ。我々の本当の実力が問われている時が今だと考える。

- 2009 年 5 月 3 日林明夫記 -